

ロービジョン児童生徒の白黒反転の好み

中野 泰志、新井 哲也、宮地 恵美
nakanoy@z7.keio.jp



Keio University

目的

ロービジョン(LV)者の中には、過度な光に対して、痛みを伴う程の羞明を感じる人、まぶしくて不快を感じる人、視機能が低下する人等が多いと言われている。しかし、「まぶしさ」を感じているロービジョン者の実態や「まぶしさ」と白黒反転の好みの関係についての大規模な調査は行われていない。そこで、「まぶしさ」を感じている児童生徒の実態やまぶしさと白黒反転の好みの関係について、拡大教科書を利用している義務教育段階のロービジョン児童生徒を対象に調査を実施した。

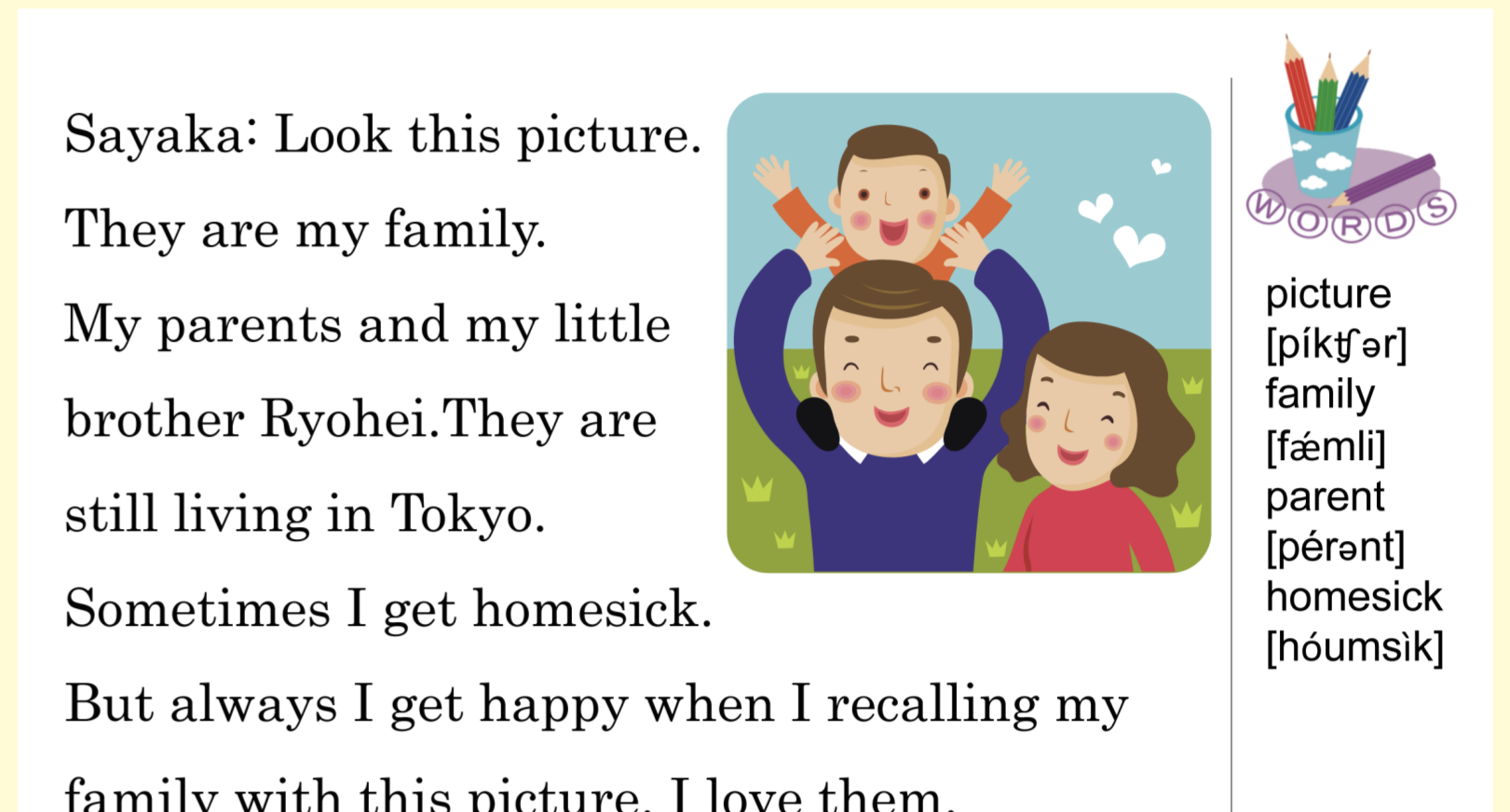
方法

第1次調査

LV児童生徒の実態把握のため、全国の市区町村教育委員会等398箇所と盲学校70校にアンケート調査を実施。

第2次調査

第1次調査で明らかになったLV児童生徒(1,158人)に対して、視機能や白黒反転の好み等をアンケート調査(白黒反転の好みはサンプル教科書を見比べて判断させた)。



<提示したサンプル教科書の例>

結果

第1次調査の結果、教育委員会から331件(回収率83.2%)、盲学校から70校(100.0%)の回答。1,158人のLV児童生徒の存在が判明。第2次調査の結果、LV児童生徒928人(通常の学級524人、弱視学級186人、盲学校218人)から有効回答あり。主な結果は、以下の通り。

表1 「まぶしさ」と白黒反転の好みの関係

	反転希望	反転不要	無回答	計
まぶしい	131	215	8	354
まぶしくない	121	396	21	538
無回答	4	27	5	36
計	256	638	34	928

表2 白黒反転の好みと「まぶしさ」の関係

	まぶしい		まぶしくない		無回答		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
反転希望	131	14.1%	121	13%	4	0.4%	256	27.6%
反転不要	215	23.2%	396	42.7%	27	2.9%	638	68.8%
無回答	8	0.9%	21	2.3%	5	0.5%	34	3.7%
計	354	38.1%	538	58%	36	3.9%	928	100%

表3 白黒反転が必要か「まぶしさ」のある児童生徒の割合

	通常学級		弱視学級		盲学校		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
反転が必要 or まぶしい	259	49.4%	95	51.1%	125	57.3%	479	51.6%
反転が不要 and まぶしくない	236	45%	84	45.2%	76	34.9%	396	42.7%
無回答	29	5.5%	7	3.8%	17	7.8%	53	5.7%
計	524	100%	186	100%	218	100%	928	100%

表4 「まぶしさ」はないが白黒反転が必要な理由

理由	人数	比率
フルカラーのものは見にくいから	6	5%
白黒反転の方が見やすいから	106	87.6%
その他	6	5%
無回答	3	2.5%
計	121	100%

- 「まぶしさ」を感じているにもかかわらず、白黒反転を好まない児童生徒が60.7%もいることがわかった。つまり、「まぶしさ」を感じているからと言って、白黒反転が見やすいとは限らないことがわかった。
- また、「まぶしさ」を感じていないにもかかわらず、白黒反転を好む児童生徒の割合が22.6%あることがわかった。つまり、「まぶしさ」を感じないにもかかわらず、白黒反転の方が見やすいと感じているケースがあることがわかった。

表5 「まぶしさ」があるが反転が不要な理由

理由	人数	比率
一般の教科書と同じフルカラーだから	71	33%
白黒反転のものは見にくいから	38	17.7%
フルカラーの方が見やすいから	51	23.7%
教科書に書き込みができるから	39	18.1%
その他	8	3.7%
無回答	8	3.7%
計	215	100%

【まとめ】

- 全国調査の結果、ロービジョンの児童生徒の中で、「まぶしさ」を感じている割合が明らかになった。また、「まぶしさ」と白黒反転の好みは、必ずしも一致しないことがわかった。特に、「まぶしさ」を感じているにもかかわらず、白黒反転を好まない児童生徒は6割もいることがわかった。
- したがって、「まぶしさ」と白黒反転は独立に評価する必要性がある。

<謝辞> 本研究は文部科学省教科書課及び科学研究費補助金(22330261)から研究費の補助を受けて実施した。



↑
報告書のURL
(QRコード)